

第73回全国消防技術者会議の開催報告

消防研究センター

令和7年度の全国消防技術者会議は、11月20日（木）および21日（金）の2日間にわたり、東京都三鷹市の三鷹市公会堂光のホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究や技術開発等の成果を発表する場として、昭和28年より毎年開催されています。また、第62回からは「消防防災研究講演会」を同時開催しています。

20日には特別講演と令和7年度消防防災科学技術賞の受賞作品発表を行い、21日には同賞の受賞作品発表と第28回消防防災研究講演会を実施しました。

消防防災科学技術賞の発表は、受賞作品29件のうち、27件（口頭発表16件、展示発表11件）について行われました。展示発表は20日昼休みから午後にかけて、隣接する会館の多目的会議室で実施しました。2日間で全国から延べ800人を超える参加がありました。

特別講演では、政策研究大学院大学の家田仁特別教授により「非常時のインフラ機能と緊急活動 ～事故・災害から学ぶ～」と題した講演が行われました（写真1）。インフラ設備の設計や構造、老朽化施設のメンテナンスに関する技術的課題に言及され、国土やインフラの計画思想、巨大災害対策等に関して、埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故や能登半島地震の事例をもとに、非常時のインフラ機能と緊急活動について解説されました。

第28回消防防災研究講演会（写真2）では、「大船渡市における大規模林野火災」をテーマに、消防研究センターから以下の3件の発表を行いました。

- ・「大船渡市大規模林野火災における消防研究センターの調査活動について」
- ・「合足集落北部での草地からの飛び火」
- ・「大船渡市の都市計画・水道と綾里港地区火災に関する聞き取り調査」

さらに、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所の玉井幸治氏から「森林科学から見た林野火災」と題して森林火災のリスク評価に関する提案がありました。大船渡地区消防組合消防本部の田中和友氏からは「令和7年大船渡市大規模林野火災の消火活動について」と題し、火災概要や各消防機関の活動状況について報告が

ありました。また、消防庁予防課特殊災害室からは「大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策について」と題して、消防庁の取り組みが解説されました。

今回の全国消防技術者会議における表彰式および受賞者による口頭発表については、会場で録画した動画を消防研究センター HPに後日掲載予定です。また、展示発表についても受賞者が作成した発表動画を後日掲載予定です。次回の全国消防技術者会議の開催については、決定次第、消防研究センターホームページ（<https://nrifd.fdma.go.jp/>）等でご案内いたします。次回も多くの方々のご参加をお待ちしております。



写真1 政策研究大学院大学の家田仁特別教授による特別講演の様子



写真2 消防防災研究講演会の総合討論時の様子

問合せ先

消防庁消防研究センター
TEL: 0422-44-8331（代表）